

「いじめといのちについて考える日」 校長講話

今日は「いじめについて考える日」です。少なくとも年に1回、すべての大坂市立の小中学校でおこなうことになっている取り組みです。正確には「いじめといのちについて考える日」ですが、ピントがぼやけないように「いじめ」にしぼって話をします。それは結果的に「いのち」を大切にすることにつながるはずです。この後の生活指導の先生の話と重ねる部分もあると思いますが、まず、校長先生の考えを伝えたいと思います。

今日の校長先生の話の結論は、「淀中学校を『いじめ』のない学校にする」です。そのためにみなさんに理解して確認してほしい要点を3つ話します。

●要点1：「いじめ」とは何か？

「人に嫌なことを言ったり、人に嫌なことをしたりして、攻撃すること」---これが「いじめ」だと校長先生は考えています。多数で1人を攻撃するだけではなく、1人で1人を攻撃しても、あるいは、まったく自分に攻撃する気がなかったとしても、嫌なことを言ったり嫌なことをした事実があり、された人が苦痛を感じれば、それは「いじめ」です。

●要点2：「いじめ」について、全員で共有したい考え方

「いじめ」はどのような理由があっても許されない。この考えを全員で共有したいです。怖い言葉をつかいますが、人を殺すことがどのような理由があっても許されないように、人のものを盗むことがどのような理由があっても許されないように。同じように、「いじめ」はどのような理由があっても許されない。この考えを全員で共有したいです。

●要点3：その考え方の理由

「いじめ」は、人の安心を奪うからです。場合によっては人の命さえ奪うからです。人の安心や命を奪う権利なんて誰にもありませんし、そのようなことが許される理由なんてどこにもありません。

「淀中学校を『いじめ』のない学校にする」ために、以上3つの要点を、今日はしっかりと理解して確認してほしいです。これらは、すでにみなさんが理解して確認している内容だろうとも思います。

ところが---実際には「いじめ」はなかなか無くなりません。なぜでしょう？

それは、人間の心の中に、人をいじめることで優越感（自分のほうが上という気持ち）や仲間意識を感じる悪い心が潜んでいるからだと考えています。

人をいじめることで優越感や仲間意識を感じるなんて、悪い心であるだけではなく、醜くて恥ずかしい心だと思います。だから、そんな心が表れてこないように、「いじめ」はどのような理由があっても許されないと全員で共有して考えるべきだと思います。

さいごに別の言い方もしておきたいと思います。

淀中学校を「優しい気持ち」があふれる学校にしてください。みんなに「優しい人」でいてほしいです。「優しさ」というのは、人のことを理解して大切にできることです。そんな気持ちがあふれる学校であれば、その正反対の「いじめ」なんておこることはないと私は思います。これは校長先生のいつも変わらない思いです。